

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>「徳性・知能・体力」の校訓のもと、一人ひとりの持てる力を最大限に伸ばし、地域に貢献する人材を育て、地域に信頼される学校づくりをめざす。 そのために、</p> <p>①「確かな学力」への取組みを通して、基礎的な力の定着と自ら学び考えることのできる応用力を養成する</p> <p>②「豊かな心」を育む活動を通して、自尊感情を高め、他者を理解し共感できる力を涵養する</p> <p>③「キャリア教育プログラム」の展開により、明確な将来設計を描き、目標に向かって努力し続ける態度を育成する</p>

2 中期的目標

<p>1 確かな学力の育成と進路実現の支援</p> <p>(1) 授業力の向上</p> <p>ア 授業に集中する環境づくりをすすめる。相互に授業力を高めるための校内授業見学週間を充実させる</p> <p>※学校教育自己診断生徒項目の学習・授業に関する項目の肯定的評価平均を、<u>6.5% (25年度) ⇒ 7.5% (28年度)</u></p> <p>(2) カテゴリー制の充実</p> <p>ア ステップアップコースのより充実に向けて「専門コース委員会」で検討し、検証する。また進路意識と連動したカテゴリー選択指導を充実させる</p> <p>※大学進学で、より自己の進路実現に向けて一般入試まで努力する生徒の倍増（大学進学希望者中 15% ⇒ 30%）</p> <p>(3) キャリア教育の推進</p> <p>ア 進路指導と人権教育をコラボレートした「総合的な学習の時間」を軸に、各学年ごとの目標の具体化と検証を進め、3年間を見通したキャリア教育プログラムを展開する</p> <p>※学校教育自己診断生徒項目、保護者項目の進路指導に関する項目の肯定的評価平均を、<u>生徒、保護者約 8.0% ⇒ ともに 8.5%</u></p> <p>2 安全で安心な魅力ある学校づくりの推進</p> <p>(1) 部活動、生徒会活動の活性化と、自主的に規律ある学校生活を送る意識を高める指導</p> <p>ア 部活動への加入を一層促進し、部活動を通じた中高・地域連携をさらに推進する。またアダプトプログラムなど生徒会主催のボランティア活動を定例化し、充実させる</p> <p>イ 遅刻を減らす取組み、着実な清掃活動の推進により、自分たちで規律ある生活を送り学校をよくし後輩に伝えていく意識を育てる</p> <p>※部活動加入率 6.6% ⇒ 7.0%。登校遅刻数の 2 割減。学校教育自己診断生徒項目の「生徒会活動は活発である」の肯定的評価を、<u>5.9% ⇒ 7.0%</u></p> <p>生活指導に関する項目の肯定的評価を、<u>5.8% ⇒ 7.5%</u></p> <p>(2) 「長尾高校適応サポート会議」の一層の充実</p> <p>ア 「高校生活支援カード」の運用を定着させ、生徒の恒常的支援体制を整える</p> <p>※学校教育自己診断生徒項目の教育相談、支援に関する項目の肯定的評価平均を、<u>6.3 ⇒ 7.5%</u></p> <p>3 学校の組織力向上をめざした取組み</p> <p>(1) 経験年数の少ない教員の OJT の推進</p> <p>ア 若手教育力育成の「さみどり塾」、研究授業の定例化や、「ベテランは一つ伝え、若手は一つ学ぶ」取組みをすすめ世代継承の活性化を図る</p> <p>(2) 中高・高大・地域連携の推進と広報活動の強化</p> <p>ア 高大連携は、大学からの学生派遣（学習支援）を補習等で活用する。中高・地域連携は部活動での交流、体育祭、文化祭への参加・交流を前進させる</p> <p>イ 社会の ICT 化に見合ったホームページの更新と、ホームページ等を通じた学校の取り組みについての発信を強化する</p> <p>※学校教育自己診断生徒項目の「授業や部活動などでの校外連携」項目の平均を、<u>3.3% ⇒ 4.5%</u></p> <p>同保護者・生徒両項目の「学校のホームページをよく見る」の肯定的評価を、<u>生徒 2.0%、保護者 2.4% ⇒ ともに 5.0%</u></p> <p style="text-align: right;">※.....26 年度より自己診断項目を修正・整理したことに伴う目標数字の修正</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>◎肯定的回答率の全平均</p> <p>【生徒】 25 年度 63.1% ⇒ 26 年度 68.9% ⇒ 本年度 70.8% 【教員】 64.7 ⇒ 66.4 ⇒ 54.8%</p> <p>【保護者】 77.2 ⇒ 77.2 ⇒ 76.4%。(参考)【保護者】の項目によって無回答だった率（部分無回答率）は 24 年度 23 ⇒ 25 年度 11.3 ⇒ 26 年度 7.9 ⇒ 本年度 6.1% と引き続き低下。</p> <p>◎項目をいくつかの分類にまとめた場合の傾向</p> <p>【生徒】昨年度、一昨年度平均（一昨年度とは項目が違うのがるので比較は参考程度）</p> <p>①学校全体についての意識： 5.9% (60%, 56%) ②学習・授業に関して： 7.2% (69%, 65%)</p> <p>③生活指導に関して： 7.1% (69%, 58%) ④進路指導に関して： 8.1% (75%, 81%)</p> <p>⑤教育相談、支援について： 7.5% (71%, 63%) ⑥人権教育、学習について： 7.2% (68%, 69%)</p> <p>⑦学校行事、生徒会活動： 6.8% (69%, 58%) ⑧施設・設備に関して： 7.3% (72%, 64%)</p> <p>※生徒は進路指導や教育相談支援等の項目群で肯定的回答が上昇。特に「先生は責任をもって授業やその他の仕事にあっている」(7.0 ⇒ 7.5 ⇒ 8.0%)、「他の先生が授業を見学に来ることがある。」(5.9 ⇒ 5.3 ⇒ 6.2%)、「先生は進路についての必要な情報や考え方をきちんと伝えている」(7.3 ⇒ 8.0%)、「悩みや相談に親身に応じてくれる先生が多い」(5.2 ⇒ 6.3 ⇒ 7.0%)、「人権の尊重について学ぶ機会がある」(7.2 ⇒ 6.2 ⇒ 6.8%) などが大きく改善または低下した分が回復した。</p>	<p>[第 1 回 5/15] 特になし</p> <p>[第 2 回 10/30]</p> <p>「2 安全で安心な魅力ある学校づくりの推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の学生は SNS に支配されているといってもいいぐらいで大学でも大問題。「するな」は不可能であり、対策型から未然防止型の指導を進めてほしい。 ・具体的な数字を挙げた評価指標はよい。しかし数字は万能ではないので数字になじまないのをどう評価するか。 ・自転車通学への指導について。指導していることが外から見えやすいものをしっかり PR することも大切である。 ・清掃点検活動について、達成率の評価など数字をつけて活動意欲を刺激するとかはどうか。また校内の安全点検を行う安全衛生活動の推進も。 ・ユニバーサルデザインの課題については単に授業の工

府立長尾高等学校

逆に低下したのが「この学校にはほかの学校にない特色がある」(71→76→71%)、「視聴覚機器やコンピュータなどを使う機会がよくある」(59→56→51%)。また、低い回答は「視聴覚機器(同左)」、「(授業や部活動、行事で地域や他校との交流)」56%、「学校のHPをよく見る」24%

【保護者】

①学校全体についての意識：76% (76,78%)	②授業・評価に関して：66% (69,72%)
③生活指導に関して：81% (82,81%)	④進路指導に関して：84% (81,79%)
⑤保護者連携、参加・相談：70% (70,69%)	⑥人権教育、学習について：86% (87,85%)
⑦学校行事、生徒会活動：87% (89,88%)	⑧施設・設備に関して：77% (80,73%)
⑨学校からの情報提供関連：70% (69,69%)	⑩学校教育への参画関連：75% (77,77%)

※保護者については、引き続き無回答が減り、肯定的回答については全体として昨年とほぼ同じ傾向で、項目別の数字もあまり変わらない。その中で高い数字は、「子どもに関する個人情報を守られている」96%、「学校行事は積極的に参加できるよう工夫されている」90%、「子供は学校に友達がいるといっている」95%、「地震・台風への対応が子どもや保護者に知らされている」88%、「保護者に出す連絡や案内文書は適切」88%など。また低い数字は「他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる」56%、「子どもは授業がわかりやすいといっている」50%、「学校のホームページをよく見る」33%など。昨年度より上昇したのは「学校は教育情報について提供の努力をしている」(79→74→77%)、下がったのは「部活動は活発である」(85→87→83%)、「生徒指導の方針に共感できる」(80→80→76%)、「子どもの心身の健康について気軽に相談できる」(72→73→68%)など。

【教員】

①教育計画・学校全体：49% (64,62%)	②授業・評価に関して：65% (66,70%)
③生活指導に関して：47% (63,60%)	④進路指導に関して：53% (68,60%)
⑤相談・支援体制：60% (77,71%)	⑥人権教育、学習について：56% (74,65%)
⑦学校行事等特別活動：67% (80,81%)	⑧施設・設備に関して：46% (63,64%)
⑨地域・保護者連携：68% (67,64%)	⑩学校組織に関するもの：48% (64,64%)
⑪教育活動改善に関して：59% (72,72%)	⑫保護者への情報提供等：68% (71,71%)

※教員の回答については数も少ないので毎年大きく変動する傾向があるが、今年度は肯定的回答はどの項目も大幅に下がっている。取り組むべきさまざまな課題が起こってきているのは事実だが、むしろそれに対して厳しく自己評価するようになったと考えたい。

(教育活動に関して)昨年度から特に上昇したのは、「年間学習計画について各教科で話し合っている」(74→72→80%)、「視聴覚機器ICT機器の授業での活用」(78→52→63%)、「情報提供手段として学校HPが活用されている」(69→60→69%)など。逆に大きく下がったのは「他の学校にない特色がある」(48→59→31%)、「到達度の低い生徒への学習指導に全校的課題として取り組んでいる」(60→58→40%)、「施設設備の拡充が長期的見通しに立って計画」(47→41→14%)、「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」(59→74→49%)、「生徒指導で家庭との連携ができていく」(79→73→54%)、「生徒一人ひとりの進路選択できめ細かい指導」(60→77→57%)、「教育相談体制が整備され担任以外とも相談できる」(70→77→60%)、「人権尊重の課題、指導方法を全教職員で話し合い」(55→58→34%)など多くの項目が該当する。

◎課題

- ・【生徒】と【保護者】についてみた場合昨年度と大きく変わっていないが、進路指導の項目では【教員】の自己評価では下がっているものの、ともに評価が高くなっている。また、【保護者】の学校の情報提供の努力、適切な文書などで評価され、【教員】の保護者への情報提供の自己評価がそれほど下がっていないことと合わせて情報提供の取り組みは進んできた。
- ・【生徒】と【教員】についてみると、他の教員の授業を見に来る／参考にするという項目の評価が一致して上がっており、取り組みが進んだといえる。しかし、視聴覚機器やICTの活用については【生徒】は下がり、【教員】は上がるなどギャップがある。
- ・そして、【生徒】【保護者】【教員】のいずれも評価していないのが「他の学校にない特色がある」で、厳しく言えば本校の魅力の乏しさともいえるが、もっと地元性に裏打ちされた本校のプライオリティをだしていく必要がある。その点、【教員】は「ホームページの活用」で評価するが、【生徒】【保護者】はずっと改善しているとはいえまだまだ低く、今後一層取り組む必要がある。
- ・総じて今年度は、昨年とは逆に中期的目標の「1 確かな学力と進路実現」については取り組みが進み評価を得られつつあるが、「2 安全安心な魅力ある学校づくり」については学習指導、生徒指導、教育相談など課題を検証して改善に努める必要がある。

夫だけでなく実践も進んでいる。一層の研究を。

[第3回 2/12]

- ・指導について生徒に分かってもらう努力をどうしているか。納得していないと難しい。ギャップは生まれていないか。
- ・遅刻指導に大変時間をかけて行っている。よい取り組み。
- ・やはりじっくりと子どもと向き合うことが大事で、遅刻指導などは一気に確実に数字が減っている。
- ・部活動加入で女子の率が低い原因は？
- ・学校教育自己診断で教員の自己評価が厳しい。次の改善を始めるステップになる。いっぺんにはできないので的を絞っていく必要がある。生徒の自己評価がいいのはいいこと。ただ関心度が下がっているようだ。
- ・ホームページはスマホで見ていることを前提に作っていくべき。
- ・自己診断で保護者の数字はあてになる。ただし答えにくいものもあったようだ。教員は厳しく自己評価しているが、その内容が課題にすべきものとそこまでのものでないのかはっきりさせていく必要がある。事故時の対応などでは不安を感じる部分がある。そういった時の役割分担をはっきりさせてほしい。
- ・中学校から見ると、高校の「ウリ」が何なのかを知りたい。周辺の中学生は理解しているが、もっと発信していくべき。入試制度改定(評定改訂)で中学生はどこの学校でも行けるものと感じている節がある。だからこれを機会にもっと発信していくべき。
- ・長尾高校は地理的には交通の便が悪く不利。評価案にあるようにこれまで築いてきたブランドを打ち出していくべきである。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成と進路実現の支援	<p>(1) 授業力の向上 ア 授業に集中する環境づくり</p> <p>イ 校内授業見学週間の充実</p> <p>(2) カテゴリー制の充実 ア ステップアップコースの検証 イ カテゴリー制の充実と検証</p> <p>(3) キャリア教育の推進 ア 年間目標の具体化と検証</p>	<p>(1) 授業力の向上 ア どの授業においても全員が集中して取り組めるよう(ベル着、机上整理等)授業規律を徹底する。教科単位で必修等の授業スタイルを明確化し(予復習、学習の仕方等)、生徒が自主的に取り組めるよう工夫する</p> <p>イ 年2回の校内授業見学週間を中心に研究授業を据え相互の授業研鑽を行えるようにする。初任者等の研究授業は年間通した取組みとする</p> <p>(2) カテゴリー制の充実 ア ステップアップコース単独クラスの取組みについて全体化し2年間かけて検証する イ 科目選択の課題等、カテゴリー制の検証を行い生徒の実態に即した新たな戦略を立てる</p> <p>(3) キャリア教育の推進 ア 進路意識醸成のため、3年間の進路指導プログラムについて、生徒が身近な存在をモデルに自己の将来を考えたり、作業を通して進路を考えられるような教材を考える</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断【生徒】の学習・授業関係項目で肯定的評価平均(69%⇒75%)アップ</p> <p>イ 自己診断【生徒】の「他の先生が授業を見に来る」の肯定的評価(53%⇒65%)アップ</p> <p>(2) ア 大学進学で一般入試まで努力する生徒(15%⇒20%) イ カリキュラム委員会等で議論開始</p> <p>(3) ア 自己診断【生徒】【保護者】の進路関係項目の肯定的評価(生:75%⇒80%、保:81%⇒85%)アップ</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断【生徒】の学習・授業項目肯定的評価(69%⇒72%)で評価アップしたが目標には届かず(△) ・学年によって差はあるが、ベル着等は定着(○)</p> <p>イ 自己診断【生徒】「他の先生が…」肯定評価(53%⇒63%)で大幅アップしたが目標には届かず(△) ・初任者研究授業を11月に実施、年間通じて外部の自学自習プログラムを導入(◎)</p> <p>(2) ア 進学実績は未終了だが、一般入試生徒増にはならず(△) イ 3年次の選択カリキュラム改善を行う。引き続きステップアップの検証へ(○)</p> <p>(3) ア 自己診断【生徒、保護者】の進路関係項目肯定評価(75%,81%⇒81%,84%)でほぼ達成(○) ・外部講師による進路説明会などで模擬授業、実習を行う等より進路意識を醸成するプログラムへと改善。総合の時間における進路意識、キャリア形成についてカリキュラム再編をにらんだ議論開始。担当者が継承すべく3年間のプログラムについてまとめたところ(○)</p>
2 安全で安心な魅力ある学校づくりの推進	<p>(1) 部活動、生徒会活動の活性化、規律ある学校生活 ア 部活動加入促進 イ 生徒会主催、活躍行事の増加 ウ 規律ある学校生活への自覚づくり</p> <p>(2) 「長尾高校適応サポート会議」の充実 ア 「高校生活支援カード」運用定着 イ 「いじめ防止基本方針」にもとづく年間計画の検証</p>	<p>(1) ア 部活動加入を強力にすすめ、部活動の様子や成績などの発信力を強化する(ホームページ、生徒会だより等) イ 生徒会執行部が主催、活躍する行事を増やす</p> <p>ウ・登校遅刻を減らす取組みを生徒指導部と担任団一体となつてすすめる(強化期間の設定等) ・保健委員の清掃点検活動を通じて生徒の清掃への意識を高め、クリーンな学校づくりをすすめる</p> <p>(2) ア・「カード」記入を通じた信頼関係づくり、情報集約、観察、ケース会議、カウンセリング、個別支援計画作成等、運用を年間サイクルでさらに定着させる取組みを推進する ・ユニバーサルデザインにもとづく授業の推進等 イ 「いじめ防止基本方針」に基づく取組みの定着をはかり、1年生HRでの教材開発と継承等をすすめる</p>	<p>(1) ア 部活動加入率65%、1、2年男女別で各々最低55%以上を目標 イ 自己診断【生徒】の「生徒会活動は活発」の肯定的評価(61%⇒70%) ウ・今年度登校遅刻の大幅減(20%減)をめざす ・自己診断【教員】「清掃が行き届いている」(41%⇒60%)</p> <p>(2) ア 自己診断【生徒】の教育相談・支援関係項目の肯定的評価(71%⇒75%)、【保護者】「気軽に先生に相談できる」(73%⇒78%) イ 自己診断【生徒】の「いじめなど困っていることに真剣に対応してくれる」の肯定的評価(69%⇒75%)</p>	<p>(1) ア 部加入率5月60%、9月(1,2年)57%で未達成。女子が低く2年女子で40%台を回復できず(△) ・ホームページはサイトリニューアルに伴い更新中 イ 自己診断【生徒】の「生徒会活動は活発」の肯定評価(61%⇒59%)でアップにつながらず(△) ・2月(11月は雨天中止)にアダプト実施、10月に小学校文化行事を手伝う ウ 登校遅刻は2月までで20%減(1年23%、2年41%、3年1%)を達成(○) ・自己診断【教員】「清掃が行き届いている」(41%⇒37%)で評価上がらず(△) ・重点を定めた特別清掃、保健委員による文化祭に向けた活動など</p> <p>(2) ア 自己診断【生徒】相談支援関係項目肯定評価(71%⇒75%)、【保護者】「気軽に先生に相談できる」(73%⇒68%、関係項目では変わらず)(△) ・「カード」記入を通じた年間サイクルは定着、UDは検討できず(△) イ 自己診断【生徒】「いじめなど困っていることに真剣に対応」肯定評価(69%⇒73%)(△)</p>

府立長尾高等学校

<p style="text-align: center;">3 学校の組織力向上をめざした取り組み</p>	<p>(1) 経験年数の少ない教員のOJT推進 ア 「さみどり塾」、研究授業の定例化 イ 世代継承の取り組み (2) 長尾ブランドを生かし、地域連携の推進と広報活動の強化 ア 地域連携 イ 高大連携 ウ PTA等学校支援の広がりめざす エ ホームページの更新 オ 広報活動</p>	<p>(1) ア・初任者中心に若手教員の年間通した授業力向上の取組み(研修、相互見学、示範授業等) ・世代継承の研修として「さみどり塾」の充実 イ 「ベテランは一つ伝え、若手は一つ学ぶ」を合い言葉に、各人が「学ぶこと、伝えること」いずれかの目標を出す(自己申告等) (2) ア 地元校としての長尾ブランドを最大限活用し、生徒会、部活動、行事等あらゆる場面での地元、市内小中学校、地域との連携を推進する イ 高大連携の推進(大学生の学習支援派遣充実にとどまらず様々な面での連携)をはかる ウ PTA、同窓会等を学校支援組織として協力を依頼…長尾ブランドの側面強化をはかる エ スマホ時代にあったホームページの全面リニューアルを開始する オ 学校主催説明会の充実や新パンフレットの作成を行う</p>	<p>(1) ア 自己診断【教員】の「経験少ない教職員を学校全体で育成する体制」の肯定的評価(55%⇒65%) イ 自己申告で全員が目標化、達成状況で70%以上 (2) ア 新規事業を少なくとも2つは行う ・自己診断【生徒】の「授業、行事等を通して校外と交流機会ある」の肯定的評価(54%⇒60%) エ 自己診断【生徒】【保護者】の「学校のHPをよく見る」の肯定的評価(生:22%⇒40%、保:31%⇒40%)</p>	<p>(1) ア 自己診断【教員】「経験少ない教職員を学校全体で育成する体制」肯定評価(55%⇒57%) (△) ・初任者中心に自学自習の基礎的な授業力向上プログラムを実施、2年目(初担任)対象研修も実施、「さみどり塾」は定着 イ 目標明記71% (○) (2) ア 事業とまではいかないが吹奏楽部、家庭科部で地域連携活動を実施 (○) ・自己診断【生徒】「授業、行事等で校外と交流機会ある」肯定評価(54%⇒56%) (△) イ 関西外大より受入れ2件(インターンシップ、留学生) (○) ウ 同窓会の活動は活発化、学校支援への援助あり。実質新卒のみの総会に古手が多数来場 (◎) エ 自己診断【生徒】【保護者】「学校のHPをよく見る」肯定評価(生:22%⇒24%、保:31%⇒33%) ・1月にポータルサイトリニューアル完了、中身を順次更新中で取組進んだが評価未だ伸びず (△) オ 旗幟等を新たに制作 (○)</p>
--	--	---	---	---